

2008 年度夏学期 数学 I (2 年他クラス聴講分) 期末試験問題 斎藤 毅

7月29日(火)5限 17:00-18:30 (90分)

・問題用紙 1 枚、解答用紙 両面 2 枚、計算用紙 1 枚

・計時機能のみの時計と筆記用具以外もちこめません。

最後の答だけを書くのではなく、途中の計算などもできるだけ詳しく書いて下さい。この点が不十分な答案は、最後の答えがあっていたとしても、大きく減点されることがありますので、注意してください。

問題 1. 理 I で数学 IA を履修した人は 1A. を、それ以外の人は 1B. を解答してください。

1A. 数列 $(a_n)_{n=0,1,\dots}$ を、 $a_0 = 1, a_{n+1} = \frac{1}{1+a_n}$ で定める。極限

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$$

を求めよ。数列 (a_n) が収束することも証明せよ。

1B. 自然数 $n \geq 1$ に対し、不等式

$$e < \sum_{k=0}^{n-1} \frac{1}{k!} + \frac{n+1}{n! \cdot n}$$

がなりたつことを示し、不等式 $e < 2.719$ を示せ。

問題 2. (1) 極限

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 x - x^2}{x^4}$$

を求めよ。

(2) 極限 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 x - x^2}{x^4}$ の絶対値を M とおく。すべての実数 x に対し、

$$|\sin^2 x - x^2| \leq Mx^4$$

がなりたつことを示せ。

問題 3. 2 変数関数 $f(x, y)$ を、

$$f(x, y) = x^3 + y^3 - 3xy$$

で定める。

(1) 偏導関数 $f_x(x, y) = \frac{\partial}{\partial x} f(x, y)$ と $f_{xy}(x, y) = \frac{\partial^2}{\partial x \partial y} f(x, y)$ を求めよ。

(2) 関数 $f(x, y)$ のグラフの、点 $(1, 2, 3)$ での接平面の方程式を求めよ。

(3) 関数 $f(x, y)$ の極値をすべて求めよ。

問題 4. $f(x, y)$ を 2 階連続微分可能な関数とし、2 変数 r, θ の関数 $g(r, \theta)$ を、 $g(r, \theta) = f(r \cos \theta, r \sin \theta)$ で定める。偏導関数 $f_x(x, y), f_y(x, y)$ を使って、偏導関数

$$g_r(r, \theta), \quad g_\theta(r, \theta)$$

をあらわせ。

1A. $a_n > 0$ である . α が極限なら , $\alpha = \frac{1}{1+\alpha}$ かつ $\alpha \geq 0$ だから , $\alpha = \frac{\sqrt{5}-1}{2}$.

$$|a_{n+1} - \alpha| = \frac{1}{1+a_n} - \frac{1}{1+\alpha} = \frac{|a_n - \alpha|}{(1+\alpha)(1+a_n)} \leq \alpha \cdot |a_n - \alpha|$$

だから , $|a_n - \alpha| \leq \alpha^n |1 - \alpha| \rightarrow 0$ ($n \rightarrow \infty$).

$$1B. e = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{1}{k!} < \sum_{k=0}^{n-1} \frac{1}{k!} + \frac{1}{n!} \sum_{k=n}^{\infty} \frac{1}{(n+1)^{k-n}} = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{1}{k!} + \frac{1}{n!} \frac{1}{1 - \frac{1}{n+1}} = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{1}{k!} + \frac{n+1}{n \cdot n!}.$$

$n = 5$ とおけば ,

$$\begin{aligned} e &< 1 + 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{6} + \frac{1}{24} + \frac{6}{5 \cdot 120} \\ &= 2 + \frac{2}{3} + \frac{1}{24} + \frac{1}{100} = 2.67666 \dots + 0.04166 \dots = 2.71833 \dots < 2.719. \end{aligned}$$

$n = 6$ なら ,

$$\begin{aligned} e &< 1 + 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{6} + \frac{1}{24} + \frac{1}{120} + \frac{7}{6 \cdot 720} \\ &< 2 + \frac{2}{3} + \frac{6}{120} + \frac{1}{600} = 2.71666 \dots + 0.00166 \dots = 2.71833 \dots < 2.719. \end{aligned}$$

2. (1) $\sin x = x - \frac{x^3}{6} + \dots$ だから , $\sin^2 x = x^2 - \frac{x^4}{3} + \dots$ で , $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin^2 x - x^2}{x^4} = -\frac{1}{3}$.

(2) $f(x) = \sin^2 x$ とおく . $f'(x) = 2 \sin x \cos x = \sin 2x$, $f''(x) = 2 \cos 2x$, $f^{(3)}(x) = -4 \sin 2x$, $f^{(4)}(x) = -8 \cos 2x$ である . 任意の実数 x に対し ,

$$\sin^2 x = x^2 + \frac{f^{(4)}(t)}{4!} x^4$$

をみたく実数 t がある , $|f^{(4)}(t)| \leq 8$ だから , 任意の実数 x に対し , $|\sin^2 x - x^2| \leq \frac{8}{24} x^4$ である .

3. (1) $f_x = 3x^2 - 3y$, $f_{xy} = -3$.

(2) $f_x(1, 2) = 3 - 6 = -3$, $f_y(1, 2) = -3 + 12 = 9$ だから , 方程式は $z - 3 = -3(x - 1) + 9(y - 2)$. 整理すれば $z = -3x + 9y - 12$.

(3) $f_x(x, y) = 3x^2 - 3y = 0$ かつ $f_y(x, y) = 3y^2 - 3x = 0$ ならば , $(x, y) = (0, 0)$ か $(1, 1)$. よって , 極値をとりうる点はこの 2 つだけ .

$\det \begin{pmatrix} f_{xx}(0, 0) & f_{xy}(0, 0) \\ f_{xy}(0, 0) & f_{yy}(0, 0) \end{pmatrix} = \det \begin{pmatrix} 0 & -3 \\ -3 & 0 \end{pmatrix} = -9 < 0$ だから , $(0, 0)$ では極値をとらない . $\det \begin{pmatrix} f_{xx}(1, 1) & f_{xy}(1, 1) \\ f_{xy}(1, 1) & f_{yy}(1, 1) \end{pmatrix} = \det \begin{pmatrix} 6 & -3 \\ -3 & 6 \end{pmatrix} = 27 > 0$ だから , $(1, 1)$ で極小値 -1 をとる .

4.

$$\begin{pmatrix} g_r \\ g_\theta \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial r} & \frac{\partial y}{\partial r} \\ \frac{\partial x}{\partial \theta} & \frac{\partial y}{\partial \theta} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} f_x \\ f_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \theta \cdot f_x + \sin \theta \cdot f_y \\ -r \sin \theta \cdot f_x + r \cos \theta \cdot f_y \end{pmatrix}.$$

2008 年度夏学期 数学 II (2 年他クラス聴講分) 期末試験問題 斎藤 毅

7月31日(木)5限 17:00-18:30 (90分)

・問題用紙 1 枚、解答用紙 両面 2 枚、計算用紙 1 枚

・計時機能のみの時計と筆記用具以外もちこめません。

最後の答だけを書くのではなく、途中の計算などできるだけわしく書いて下さい。この点が不十分な答案は、最後の答えがあっていたとしても、大きく減点されることがありますので、注意してください。

問題 1. 3次元空間 \mathbb{R}^3 の原点を O とし、 P を点 $(1, 1, 1)$ 、 l を直線 OP とする。

- (1) 直線 l のパラメータ表示を与えよ。
- (2) 点 $A = (1, 0, 0)$ を含み、 l と直交する平面の方程式を求めよ。
- (3) 直線 l を軸とし、点 A を点 $B = (0, 1, 0)$ に移す回転をあらわす行列を求めよ。

問題 2. $A = \begin{pmatrix} 1 & 6 & 7 & 12 \\ 2 & 5 & 8 & 11 \\ 3 & 4 & 9 & 10 \end{pmatrix}$ とおく。

- (1) A の階数を求めよ。
- (2) 方程式 $Ax = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ の解をすべて求めよ。

問題 3. $A = \begin{pmatrix} 0 & 0 & -4 \\ 1 & 0 & -3 \\ 0 & 1 & -2 \end{pmatrix}$ とおき、 $x = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ とする。

- (1) ベクトル Ax, A^2x, A^3x, A^4x を求めよ。
- (2) A の行列式 $\det A$ を求めよ。
- (3) 逆行列 A^{-1} を求めよ。
- (4) I を 3 行 3 列の単位行列とする。行列式 $\det(10 \cdot I - A)$ を求めよ。

1. (1) $x = t, y = t, z = t.$

(2) $x + y + z = 1.$

(3) $\begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}.$

2. (1) ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ と $\begin{pmatrix} 6 \\ 5 \\ 4 \end{pmatrix}$ は1次独立であり, $\begin{pmatrix} 7 \\ 8 \\ 9 \end{pmatrix} = \frac{13}{7} \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} + \frac{6}{7} \begin{pmatrix} 6 \\ 5 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 12 \\ 11 \\ 10 \end{pmatrix} =$
 $-\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 6 \\ 5 \\ 4 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 7 \\ 8 \\ 9 \end{pmatrix}$ だから, 階数は2である.

(2) $b = \frac{1}{7} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ は, 方程式 $Ax = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ の解であり, $c = \begin{pmatrix} 13 \\ 6 \\ -7 \\ 0 \end{pmatrix}$ と $d = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$ は, 方程

式 $Ax = 0$ の解である. c と d は1次独立で, A の階数は2だから, 一般解は $x = b + sc + td$ (s, t は任意の実数) である.

3. (1) $Ax = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, A^2x = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, A^3x = \begin{pmatrix} -4 \\ -3 \\ -2 \end{pmatrix}, A^4x = \begin{pmatrix} -2 \cdot (-4) \\ -4 - 2 \cdot (-3) \\ -3 - 2 \cdot (-2) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 8 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}.$

(2) $\det A = -4.$

(3) $A^{-1} = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} -3 & 1 & 0 \\ -2 & 0 & 1 \\ -1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$

(3) $\det(10 \cdot I - A) = 10^3 + 2 \cdot 10^2 + 3 \cdot 10 + 4 = 1234.$